



埼玉の社叢

熊谷市赤城久伊豆神社社叢ふるさとの森

熊谷市石原一〇〇七

当所には往昔より石原村の鎮守として赤城神社が祀られていた。延徳元年（一四八九）、成田親泰が忍大丞の居館を攻め落とし、忍城を築いたが、城の防備と領内の灌漑のために成田用水を開削した。その際、当所に程近い荒川からの取水門の傍らに、本貫の地で代々崇敬している久伊豆神社（現在の上之村神社）を風水旱の災害・五穀豊熟の守護神として勧請したことに始まる。しかし、この後、荒川の流路が変わり、境内地が浸食されたことから、近くの赤城神社に遷座されたという。現在も二間社流造りの本殿にそれぞれが祀られている。

当社には二本の参道があり、一本は北参道で元からの参道とされ、赤城山を望む両部鳥居があり、中山道の石原村に通じていた。もう一本は東参道で忍城に通じ、歴代の城主が参拝する時に利用された参道である。氏子の通称として、当社を石原の「オヒサエデンサマ」と呼んでいたのも、歴代の忍城主からの崇敬が篤かったことに由来する。

現在も一・二・三ヘクタールの社叢があるが、かつての社はさらに西側・北側へも広がっており、明治期には学校用地、近年では上越新幹線用地となったことから境内地が大幅に縮小している。

昭和四十一年九月二十六日の大型台風では、境内の樹齢三百年以上のもを含む数十本の大杉が倒れ、本殿も大きな被害を被った。また、東参道には、かつて夫婦松のクロマツの大き木があった。現在の社叢は、スギ・ケヤキ・クス・エノキなどで構成されており、平成五年三月、ふるさとの森に指定された。